

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月12日

【四半期会計期間】 第6期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 株式会社デジタルハーツホールディングス

【英訳名】 DIGITAL HEARTS HOLDINGS Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 CEO 玉塚元一

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03(3373)0081

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 筑紫敏矢

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03(3373)0081

【事務連絡者氏名】 取締役 CFO 筑紫敏矢

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第5期 第3四半期 連結累計期間	第6期 第3四半期 連結累計期間	第5期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(千円)	12,960,074	14,393,333	17,353,218
経常利益	(千円)	1,567,197	1,233,072	1,782,618
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	1,003,312	847,573	1,200,174
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	971,245	1,210,947	1,112,896
純資産額	(千円)	3,416,395	4,636,787	3,570,132
総資産額	(千円)	8,219,711	9,364,773	8,575,286
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	46.11	38.82	55.14
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	44.42	37.40	53.12
自己資本比率	(%)	38.9	47.3	39.3

回次		第5期 第3四半期 連結会計期間	第6期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	15.09	15.49

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

(エンターテインメント事業)

当社の連結子会社であったEV0 Japan 実行委員会有限責任事業組合は、組合契約期間が満了し、第2四半期連結会計期間において清算手続きが完了したため、連結の範囲から除外しております。

(エンタープライズ事業)

第2四半期連結会計期間において、システムテスト事業を展開する株式会社エイネット及び、ベトナムにおける新規事業立ち上げを目的として新たに設立したDIGITAL HEARTS GNT VIET NAM COMPANY LIMITEDの2社を株式取得により子会社化したため、連結の範囲に含めております。

また、非連結子会社としておりました株式会社デジタルハーツネットワークスにつきましては、重要性が増したため、第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。各区分に係る主な事業内容は下記のとおりです。その他詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

当社グループは、純粋持株会社である当社、連結子会社8社、非連結子会社1社、関連会社1社(平成30年12月31日現在)で構成されており、ソフトウェアの不具合を検出し顧客企業に報告するデバッグ・システムテストサービスを中心に事業を展開しております。

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、昨今、IoTの進展やデバイスの多様化等を背景に、ソフトウェアはますます複雑化しており、製品の故障やサービスの停止につながる致命的な不具合が発生するリスクが高まっていることから、製品の信頼性や安全性を確保するためのテストの重要性が増しております。

従来、これらのテスト業務は、主にメーカーやソフトウェア開発会社の社内で行われてきましたが、近年、自社内におけるIT人材及びエンジニア不足が深刻化していることに加え、テストに求められる知見が多様化し専門性も高まっていることから、スピーディ且つ高品質なテストができる専門会社にテスト業務をアウトソーシングする傾向が高まっております。

このような状況のもと、当社グループでは、全国各地に事業拠点を整備し戦略的に人材を確保することで、約8,000名の豊富なテスト人材を擁しており、スケジュールが流動的な開発体制にあわせ1日単位でテスト人員を柔軟に変更することができる体制を構築しております。また、当社独自の教育制度により、テストを実施するテスターから、テスト設計やテストマネジメントを行うテストエンジニアへと育成することで、開発工程から総合的に品質向上を支援しております。

さらに、企画・設計・プログラム作成といったソフトウェア開発の上流工程に対する開発支援及び運用・保守、セキュリティ等、テスト工程と親和性の高い関連サービスも提供しております。

上記サービスを提供する各セグメントは以下の通りです。

エンターテインメント事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器等のエンターテインメント向けコンテンツを対象に、以下のサービスを提供しております。

() デバッグ

主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器を対象に、ソフトウェアの不具合をユーザー目線で検出し顧客企業に報告するサービスを提供しております。

(主な関係会社) 株式会社デジタルハーツ
DIGITAL HEARTS USA Inc.
DIGITAL HEARTS (Shanghai) Co., Ltd.

() クリエイティブ

ゲーム開発や2D/3Dグラフィック制作等、コンテンツ制作におけるクリエイティブ領域全般にわたる制作サポートサービスを提供しております。

(主な関係会社) 株式会社フレイムハーツ

() メディア及びその他

日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」等の運営やカスタマーサポート等のサービスを提供しております。

(主な関係会社) Aetas株式会社
株式会社デジタルハーツ

エンタープライズ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズ向けシステムを対象に以下のサービスを提供しております。

() システムテスト

主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するサービスを提供しております。

(主な関係会社) 株式会社デジタルハーツ
株式会社エイネット
DIGITAL HEARTS GNT VIET NAM COMPANY LIMITED
株式会社ZEG (持分法適用会社)

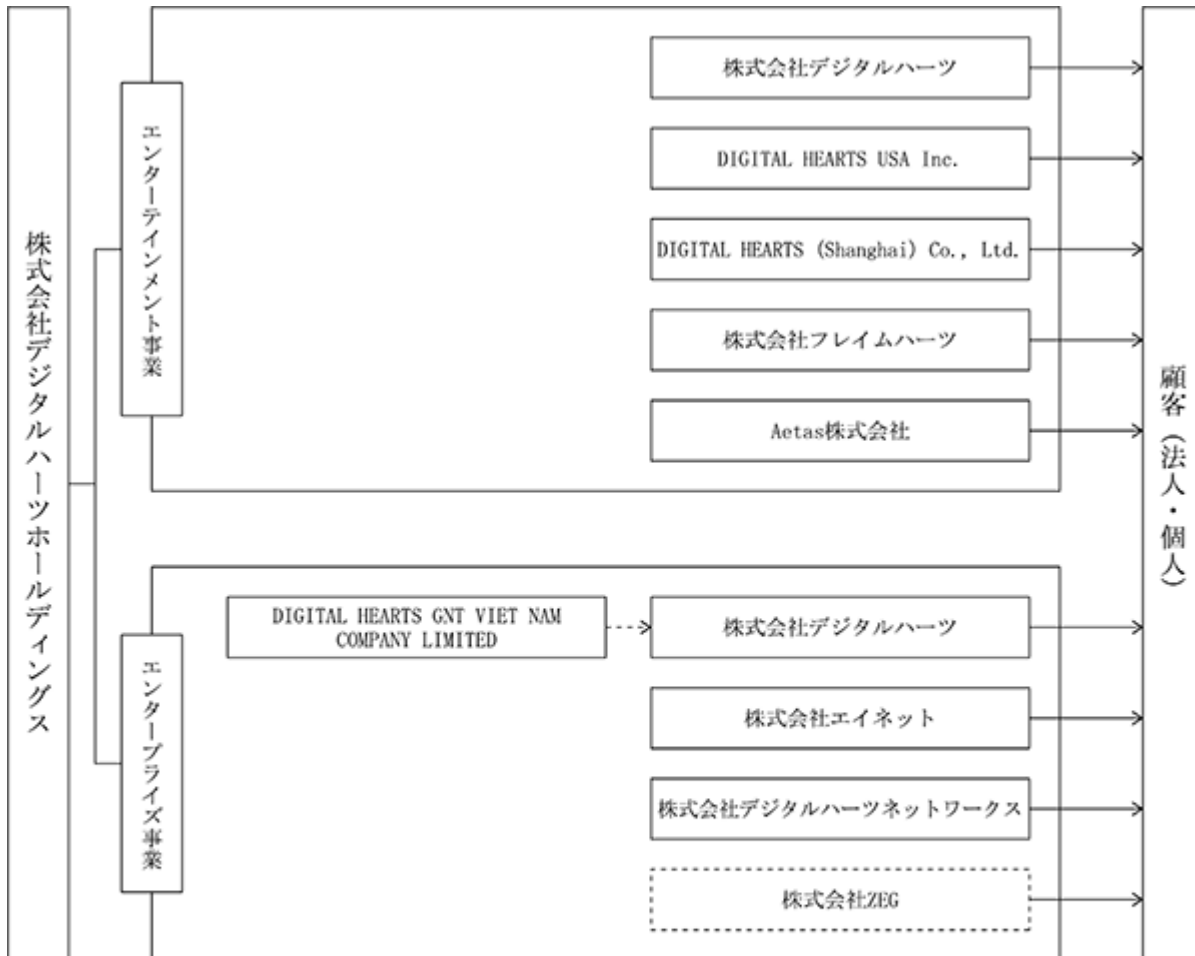
() ITサービス・セキュリティ

システムの受託開発やITサポート、セキュリティ等のサービスを提供しております。

(主な関係会社) 株式会社デジタルハーツ
株式会社デジタルハーツネットワークス

[事業系統図]

当社グループの事業の系統図は、以下のとおりであります。



-----> :内部取引

——> :外部取引

□ :連結子会社

□ (dashed border) :持分法適用会社

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

	平成30年3月期 第3四半期 (千円)	平成31年3月期 第3四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
売上高	12,960,074	14,393,333	11.1
営業利益	1,551,116	1,241,740	19.9
経常利益	1,567,197	1,233,072	21.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,003,312	847,573	15.5

当社グループを取り巻くデジタル関連市場においては、インターネット環境の飛躍的な進展やスマートデバイスの普及拡大等を背景に、コンテンツやサービスの多様化が急速に進んでいます。その一方、各企業においては、その開発及び運営を支えるIT人材が慢性的に不足していることから、ソフトウェアの開発・テスト・プロモーション等の支援サービスを提供している当社グループの収益機会は、今後も引き続き拡大するものと見込んでおります。

このような状況のもと、当社グループでは、「アジアNo.1の総合テスト・ソリューションカンパニー」となることを目指し、主力のエンターテインメント事業においては、デバッグサービスを中心に競争優位性のさらなる向上に努めるとともに、成長分野として位置付けるエンタープライズ事業においては、システムテストサービスを中心に、第二の収益の柱に育てるべく、事業拡大を推進しております。

当第3四半期連結累計期間においては、エンタープライズ事業のITサービス・セキュリティサービスが前年同四半期比2.5倍以上の成長を実現するなど、好調に推移したことにより、売上高14,393,333千円(前年同四半期比11.1%増)となりました。一方、利益につきましては、エンタープライズ事業において実施した人材をはじめとする積極的な先行投資やエンターテインメント事業におけるアミューズメント機器向けのデバッグサービスの大幅な減収等の影響により、営業利益は1,241,740千円(前年同四半期比19.9%減)、経常利益は1,233,072千円(前年同四半期比21.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は847,573千円(前年同四半期比15.5%減)となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

	平成30年3月期 第3四半期 (千円)	平成31年3月期 第3四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
売上高	12,960,074	14,393,333	11.1
エンターテインメント事業	11,870,748	12,074,312	1.7
エンタープライズ事業	1,197,360	2,319,118	93.7
調整額	108,035	97	
営業利益又は営業損失	1,551,116	1,241,740	19.9
エンターテインメント事業	2,523,064	2,351,875	6.8
エンタープライズ事業	75,550	195,758	
調整額	896,397	914,376	

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益又は損失は営業利益ベースとなっております。

エンターテインメント事業

当セグメントでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器のデバッグ、ゲームの受託開発、プロモーション活動支援等のサービスを提供しております。

エンターテインメント事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

	平成30年3月期 第3四半期 (千円)	平成31年3月期 第3四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
デバッグ	10,202,587	9,886,763	3.1
クリエイティブ	1,233,019	1,495,397	21.3
メディア及びその他	435,141	692,151	59.1
エンターテインメント事業 合計	11,870,748	12,074,312	1.7

() デバッグ

デバッグサービスでは、主に、コンソールゲーム、モバイルゲーム、アミューズメント機器を対象に、ソフトウェアの不具合をユーザー目線で検出し顧客企業に報告するサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、モバイルゲーム向けのサービスにおいて、顧客ニーズにきめ細やかに対応した付加価値の高いサービスの提供に注力することで、引き続き運営フェーズを中心に増加するデバッグ需要を確実に獲得し、大幅な増収を達成致しました。その一方、アミューズメント機器向けのサービスにおいては、平成30年2月に施行された規制強化の影響により、引き続き厳しい受注環境が続いたことから、大幅に減少致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のデバッグサービスの売上高は9,886,763千円(前年同四半期比3.1%減)となりました。

() クリエイティブ

クリエイティブサービスでは、ゲーム開発や2D/3Dグラフィック制作等、コンテンツ制作におけるクリエイティブ領域全般にわたる制作サポートサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、技術力の高い人材の確保・育成に注力し、サービス品質の向上に努めた結果、継続的なゲーム開発案件に加え、新規案件の獲得が順調に進みました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のクリエイティブサービスの売上高は1,495,397千円(前年同四半期比21.3%増)となりました。

() メディア及びその他

メディア及びその他のサービスでは、日本最大級の総合ゲーム情報サイト「4Gamer.net」等の運営やカスタマーサポートサービス等を提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、主に「4Gamer.net」において、独自取材による付加価値の高い情報のスピーディな配信に努め、メディアとしての価値の向上を図って参りました。また、前期より新たに開始したカスタマーサポートサービスでは、順調に案件を獲得し、好調に推移致しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のメディア及びその他サービスの売上高は692,151千円(前年同四半期比59.1%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエンターテインメント事業の売上高は、12,074,312千円(前年同四半期比1.7%増)となりました。セグメント利益は、主にアミューズメント機器向けのデバッグサービスの大幅な減収の影響を受け、2,351,875千円(前年同四半期比6.8%減)となりました。

エンタープライズ事業

当セグメントでは、主に、エンタープライズシステムを対象とするシステムテスト及び受託開発サービスや、ITサポート、セキュリティ等のサービスを提供しております。

エンタープライズ事業におけるサービス別の売上高は以下のとおりであります。

	平成30年3月期 第3四半期 (千円)	平成31年3月期 第3四半期 (千円)	前年同四半期 増減率 (%)
システムテスト	642,938	911,940	41.8
ITサービス・セキュリティ	554,422	1,407,177	153.8
エンタープライズ事業 合計	1,197,360	2,319,118	93.7

() システムテスト

システムテストサービスでは、主に、エンタープライズシステムの不具合を検出するサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、顧客ニーズを的確に捉えたサービスの拡充を図るとともに、積極的な営業活動を展開することで、新規顧客の開拓及び既存顧客との取引拡大を実現致しました。また、新規案件の獲得に必要不可欠である、テストの要件定義や設計が出来る「上流エンジニア」の確保を目的に、業界スペシャリストの採用強化や医療系システムのテストに強い株式会社エイネットの子会社化等を図って参りました。さらに、他社とのアライアンスを活用した教育プログラムの充実化や日本におけるソフトウェアテスト技術者資格である「Japan Software Testing Qualifications Board(略称：JSTQB)」取得に向けた社内プログラムを新設するなど、当社グループに在籍する約8,000名のテスターの中から上流エンジニアを育成するための社内体制の整備を推進して参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のシステムテストサービスの売上高は911,940千円(前年同四半期比41.8%増)と大幅な増収を達成致しました。

() ITサービス・セキュリティ

ITサービス・セキュリティサービスでは、システムの受託開発やITサポート、セキュリティ等のサービスを提供しております。

当第3四半期連結累計期間は、他社とのアライアンスも積極的に活用し、社内システムの構築から保守・運用まで総合的にサポートできる体制の強化を図って参りました。さらに、システムテストと親和性の高いセキュリティ事業に本格参入し、人工知能等の技術を活用した新たなサービスの拡充や、専門人材によるセキュリティ監視チームを立ち上げるなど、今後の事業拡大に向けた取り組みを推進して参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のITサービス・セキュリティサービスの売上高は1,407,177千円(前年同四半期比153.8%増)と好調に推移致しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のエンタープライズ事業の売上高は、2,319,118千円(前年同四半期比93.7%増)と前年同四半期比約2倍となる大幅な増収を達成致しました。セグメント利益は、専門人材をはじめとする積極的な投資を実施したことにより、195,758千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産の残高は6,691,608千円となり、前連結会計年度末における流動資産6,732,753千円に対し、41,145千円の減少(前期比0.6%減)となりました。

これは、主として現金及び預金が144,072千円減少したことによるものであります。

固定資産の残高は2,673,164千円となり、前連結会計年度末における固定資産1,842,533千円に対し、830,631千円の増加(前期比45.1%増)となりました。

これは、主として、のれんが276,374千円増加したことと投資有価証券が493,679千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は3,610,207千円となり、前連結会計年度末における流動負債3,929,183千円に対し、318,975千円の減少(前期比8.1%減)となりました。

固定負債の残高は1,117,778千円となり、前連結会計年度末における固定負債1,075,971千円に対し、41,807千円の増加(前期比3.9%増)となりました。

(純資産)

純資産の残高は4,636,787千円となり、前連結会計年度末における純資産3,570,132千円に対し、1,066,655千円の増加(前期比29.9%増)となりました。

これは、主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が847,573千円増加したことによるものであります。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発活動の金額は969千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(4) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

受注実績

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同四半期比 (%)
エンターテインメント事業 クリエイティブ	1,403,490	97.6	180,258	43.3

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 当社グループの「エンターテインメント事業」に含まれる「デバッグ」、「メディア及びその他」及び「エンタープライズ事業」は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しています。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

区分	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)		
	金額(千円)	前年同四半期比(%)	
エンターテインメント 事業	デバッグ	9,886,763	96.9
	クリエイティブ	1,495,397	121.3
	メディア及びその他	692,151	159.1
	小計	12,074,312	101.7
エンタープライズ 事業	システムテスト	911,843	141.8
	ITサービス・セキュリティ	1,407,177	315.2
	小計	2,319,021	212.9
合計	14,393,333	111.1	

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 当第3四半期連結累計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社スクウェア・エニックス	1,926,452	14.9	1,892,903	13.2
株式会社ディー・エヌ・エー	1,360,863	10.5	-	-

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は次のとおりであります。

国内子会社

当社の連結子会社である株式会社デジタルハーツの笹塚Lab.の改修に伴い、以下の設備を取得致しました。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)		
				建物	工具、器具 及び備品	合計
株式会社デジタルハーツ	笹塚Lab. (東京都新宿区)	エンターテ インメント 事業	デバッグ ルーム	-	26,745	26,745

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	76,800,000
計	76,800,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,890,800	23,890,800	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 あります。
計	23,890,800	23,890,800		

- (注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。
2. 提出日現在の発行数には、平成31年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日		23,890,800		300,686		300,686

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,016,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,868,700	218,687	株主としての権利内容に制限のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 5,900		
発行済株式総数	23,890,800		
総株主の議決権		218,687	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式6株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社デジタルハーツホールディングス	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号	2,016,200		2,016,200	8.43
計		2,016,200		2,016,200	8.43

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,894,356	3,750,284
受取手形及び売掛金	2,480,648	2,506,938
たな卸資産	14,924	39,609
その他	357,228	419,421
貸倒引当金	14,404	24,644
流動資産合計	6,732,753	6,691,608
固定資産		
有形固定資産	473,564	458,815
無形固定資産		
のれん	150,368	426,743
その他	136,486	195,183
無形固定資産合計	286,854	621,926
投資その他の資産		
投資有価証券	268,293	761,972
その他	814,095	841,004
貸倒引当金	274	10,554
投資その他の資産合計	1,082,114	1,592,422
固定資産合計	1,842,533	2,673,164
資産合計	8,575,286	9,364,773
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,600,000	1,700,000
未払費用	986,180	825,632
未払法人税等	259,408	171,528
賞与引当金	64,227	74,115
その他	1,019,367	838,930
流動負債合計	3,929,183	3,610,207
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	1,017,200	1,017,200
その他	58,771	100,578
固定負債合計	1,075,971	1,117,778
負債合計	5,005,154	4,727,986

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	300,686	300,686
資本剰余金	331,729	366,598
利益剰余金	5,113,524	5,680,404
自己株式	2,405,036	2,311,908
株主資本合計	3,340,904	4,035,780
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,679	363,173
為替換算調整勘定	25,972	26,610
その他の包括利益累計額合計	28,652	389,783
新株予約権		13,363
非支配株主持分	200,575	197,859
純資産合計	3,570,132	4,636,787
負債純資産合計	8,575,286	9,364,773

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	12,960,074	14,393,333
売上原価	9,085,995	10,284,186
売上総利益	3,874,078	4,109,146
販売費及び一般管理費	2,322,962	2,867,406
営業利益	1,551,116	1,241,740
営業外収益		
受取利息	469	67
受取配当金	15	15
投資事業組合運用益	5,952	1,335
為替差益	-	1,500
持分法による投資利益	2,279	-
助成金収入	7,669	24,050
その他	11,243	10,029
営業外収益合計	27,629	36,998
営業外費用		
支払利息	2,247	2,138
為替差損	957	-
自己株式取得費用	6,239	-
支払手数料	-	12,947
和解金	-	24,041
持分法による投資損失	-	4,377
その他	2,104	2,160
営業外費用合計	11,548	45,666
経常利益	1,567,197	1,233,072
特別利益		
固定資産売却益	2,112	-
投資有価証券売却益	-	30,634
特別利益合計	2,112	30,634
特別損失		
事務所移転費用	-	8,492
事業整理損	1 24,988	-
本社移転費用	25,806	-
投資有価証券評価損	97,312	-
事業撤退損	-	2 43,108
特別損失合計	148,107	51,600
税金等調整前四半期純利益	1,421,201	1,212,106
法人税、住民税及び事業税	468,844	404,440
法人税等調整額	28,868	42,412
法人税等合計	439,976	362,028
四半期純利益	981,224	850,077
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	22,087	2,503
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,003,312	847,573

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	981,224	850,077
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,392	360,493
為替換算調整勘定	7,586	376
その他の包括利益合計	9,979	360,869
四半期包括利益	971,245	1,210,947
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	996,452	1,208,705
非支配株主に係る四半期包括利益	25,206	2,242

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第2四半期連結会計期間において、システムテスト事業を展開する株式会社エイネット及び、ベトナムにおける新規事業立ち上げを目的として新たに設立したDIGITAL HEARTS GNT VIET NAM COMPANY LIMITEDの2社を株式取得により子会社化したため、連結の範囲に含めております。

また、非連結子会社としておりました株式会社デジタルハーツネットワークスにつきましては、重要性が増したため、第2四半期連結会計期間から連結の範囲に含めております。

当社の連結子会社であったEVO Japan 実行委員会有限責任事業組合は、組合契約期間が満了し、第2四半期連結会計期間において清算手続きが完了したため、連結の範囲から除外しております。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

事業整理損の内容は次のとおりであります。

DIGITAL Hearts(Thailand) Co.,Ltd.及びDIGITAL Hearts Korea Co.,Ltd.の撤退に伴い、事業整理損を計上しております。主な内容は、事務所閉鎖費用21,343千円、減損損失3,644千円であります。

2 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

事業撤退損の内容は次のとおりであります。

DIGITAL HEARTS USA Inc.のデバッグ事業撤退に伴い、事業撤退損を計上しております。主な内容は、旧事務所地代家賃32,938千円、減損損失7,183千円であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	155,383千円	98,536千円
のれんの償却額	56,615千円	83,560千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	131,685	6.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金
平成29年11月10日 取締役会	普通株式	119,863	5.50	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成29年2月17日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、実施致しました。この取得により自己株式は、347,083千円増加しております。また、平成29年7月21日開催の取締役会において、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式を82,482株処分を行うことを決議し、実施致しました。自己株式が94,579千円減少し、資本剰余金が54,218千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の残高は、資本剰余金331,729千円、自己株式2,405,036千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月11日 取締役会	普通株式	130,760	6.00	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金
平成30年11月9日 取締役会	普通株式	142,184	6.50	平成30年9月30日	平成30年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成30年7月20日開催の取締役会において、当社の取締役等に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式を81,216株処分を行うことを決議し、実施致しました。自己株式が93,127千円減少し、資本剰余金が34,869千円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の残高は、資本剰余金366,598千円、自己株式2,311,908千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	エンターテイン メント事業	エンタープライ ズ事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	11,870,748	1,089,325	12,960,074	12,960,074		12,960,074
セグメント間の 内部売上高又は 振替高		108,035	108,035	108,035	108,035	
計	11,870,748	1,197,360	13,068,109	13,068,109	108,035	12,960,074
セグメント利益 又は損失()	2,523,064	75,550	2,447,513	2,447,513	896,397	1,551,116

(注) 1. セグメント利益の調整額 896,397千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	エンターテイン メント事業	エンタープライ ズ事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	12,074,312	2,319,021	14,393,333	14,393,333		14,393,333
セグメント間の 内部売上高又は 振替高		97	97	97	97	
計	12,074,312	2,319,118	14,393,430	14,393,430	97	14,393,333
セグメント利益 又は損失()	2,351,875	195,758	2,156,116	2,156,116	914,376	1,241,740

(注) 1. セグメント利益の調整額 914,376千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第2四半期連結会計期間において、株式取得により株式会社エイネットを子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。これにより前連結会計年度の末日に比べ、「エンタープライズ事業」のセグメント資産が426,530千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、管理体制の強化を目的とした会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「デバッグ事業」、「メディア事業」、「クリエイティブ事業」、「その他の事業」から、「エンターテインメント事業」、「エンタープライズ事業」の2区分に変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	46円11銭	38円82銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,003,312	847,573
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	1,003,312	847,573
普通株式の期中平均株式数(株)	21,758,315	21,833,838
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	44円42銭	37円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	827,059	827,059
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		平成30年5月16日開催の取締役会に基づく第4回新株予約権 新株予約権の個数 20,000個 (普通株式 2,000,000株) 平成30年5月16日開催の取締役会に基づく第5回新株予約権 新株予約権の個数 14,000個 (普通株式 1,400,000株) 平成30年5月16日開催の取締役会に基づく第6回新株予約権 新株予約権の個数 6,800個 (普通株式 680,000株)

(重要な後発事象)

当社は、平成30年12月21日開催の取締役会において、平成28年6月9日に発行致しました第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部繰上償還の決議を行い、平成31年1月7日に実行致しました。

- | | |
|--------------|---------------------|
| (1)繰上償還した銘柄 | 第1回無担保転換社債型新株予約権付社債 |
| (2)繰上償還額 | 508,600,000円 |
| (3)繰上償還金額 | 額面100円につき101円50銭 |
| (4)繰上償還日 | 平成31年1月7日 |
| (5)償還資金の調達方法 | 全額自己資金により償還 |

2 【その他】

第6期（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）中間配当について、平成30年11月9日開催の取締役会において、平成30年9月30日の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議致しました。

配当金の総額	142,184千円
1株当たりの金額	6円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成30年12月5日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月 8日

株式会社デジタルハーツホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤 本	貴 子	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	野 田	智 也	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齋 藤	映	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルハーツホールディングスの平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルハーツホールディングス及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。